

## 第二言語としての日本語習得に関わる動機づけ — 成人にみられる動機づけの傾向 —

中川 まち子

### 要旨

1950年代 R.Gardner 等のリサーチによって本格化し、1980年代に日本に導入された言語習得に関わる動機づけなど情意要因の研究は、学習コンテキストによる研究がそのほとんどを占める。

本稿は理論的枠組みを欧米の先行研究から学んで策定し、日本で社会生活を送る成人外国人の第二言語としての日本語習得に関わる動機づけを調査して、社会心理学的視点からその傾向を探った。質問紙により174名のインフォーマントから回答を得て分析・考察を行い、次の結果を得た。①日本語習得に関わる動機づけのパターンは第一に包括的動機づけ、第二が道具的動機づけ、第三が統合的動機づけである。②地域差やステータスの違いは動機づけの強さにあらわれる。③第二言語としての日本語の習得は、社会環境においても学習コンテキストと同様、興味・好奇心によってもっとも動機づけられている。④日本語習得に強い動機づけを持つグループ（社会人、非漢字圏、長期滞在予定者）は日本人に対するイメージもプラス評価が多い。⑤同化志向は長期滞在中者ではなく長期滞在予定者に喚起される。

**キーワード** 第二言語としての日本語、成人の言語習得動機づけ、社会心理学的視点  
包括的動機づけ、同化志向

### 0. はじめに

日本に滞在する外国人の多くは「日本語がもっと上手になりたい」とか、「日本文化や習慣をもっと知りたい」と思っているのではないだろうか。後述するアンケートの結果でも、この問いに「NO」すなわち「そうは思わない」と答えたのは滞日外国人174人中わずかに5人（2.9%：学生4人、社会人1人）であった。なぜそう思うのか。つまり何が彼らを日本語や日本文化に向かわせるのか。何のためにそう思うのか。彼らがニーズとして意識するものから意識されない情意的要因まで『動機づけ（Motivation）』という観点から探求する。

筆者は「立川市・外国人のための日本語教室」（1992年開室）に係わり、入室する外国人の傾向を9年ほど見てきた。そして出身国による学習態度の違いや、滞在目的による長続きの差、永住希望者の意識などを感じてきたのであるが、それが個人の「言語動機づけ」という尺度にどの程度あらわれるのか、同じ成人でも社会人と留学生で差がみられるか、永住者に特殊なモチベーションがあるか、などを検証してみようと考えた。

#### 0・1 用語の定義

##### 動機と動機づけ：

動機や動機づけは言語習得に限らず人が何かをしたいと欲したり、何かをしなければならない必要性に迫られて、その行動をしようとする時に生起される心のメカニズムである。簡単に言えば「やる気」である。動機と動機づけを同一視する立場もあるが、金子（1990、p.84）によれば、

人は欲求あるいは要求が生じると、それを充足する方向に行動を起こそうとする。この心の状態を「動機」あるいは「動因」<sup>1</sup>という。目標に向けて始発された行動が持続的に推進する過程または機能を指して「動機づけ」という。従って、動機づけとは「欲求—動機—行動—目標に到達」という一連の過程の維持状態を示す。

Gardner (1985, pp.10 - 11) は言語習得／言語学習における動機づけ (motivation) について 動機づけの要素を 4 つあげている。 1. 目標 (goal : 学びたいこと) 2. 努力 (effort : ことばを覚えようとする努力) 3. 願望 (desire/want : 目標を達成したいという気持ち) 4. 情動 (affect : 言語学習にたいする好ましい態度<sup>2</sup>)

心理学上の標準的な定義では努力は動機づけの結果とされるが、Gardner は「努力は動機づけの構成要素 (construct) である」とした。目標を達成したいと思う願望と目標に対する好ましい態度とが努力又は動機 (motive) や動因 (drive) と結びついた時、動機づけが喚起される。動因や動機に、行動を促す誘因 (incentive) が働いて意欲がわき、行動に至るのである。言語学習時の誘因としては、報酬 (reward)、手段としての目的など外部からの外発的誘因と興味、好奇心、責任感など内発的なものがある。そしてその目標達成に向かうプロセスにおいて意欲を持続させ、方向性をもって行動を支えるのが努力 (effort) である。これら一連のプロセスが動機づけないし動機づけの喚起と呼ばれる。

#### 言語習得と言語学習：

言語習得を英語にした language acquisition、language learning は言語学習と訳される。英語の learning には習得の意味も含まれ、必ずしも英語と訳語の意味領域が同じではないのだが、本稿では言語学習を「何らかの教育環境のもとでなされる言語の習得」とし、言語習得を「自然環境と教育的環境とを問わず、言語を習い覚えて身につけること」と定義する。後者には広い意味での文化やアイデンティティの獲得も含意されるものとする。

#### 第二言語としての日本語：

言語習得には習得者／学習者の立場から 4 つの習得相 が考えられる。母語としての習得、第二言語としての習得、外国語としての習得、およびバイリンガルとしての習得である。母語と第一言語<sup>3</sup>は必ずしも一致するわけではない。(cf. p.114 資料1) 成人の言語習得を扱う本稿においては第二言語としての日本語は「滞日外国人が使用する生活語として

1 動因 (drive) は主に生理学的な不均衡状態としての要求 (need) が行動を直接喚起する場合の活動化作用を促す要因を言い、一方、認知・認識作用に基づいて発生する心理的な不均衡状態としての欲求 (want) や同じく認知・認識作用に基づいて欲求が満たされるであろうという予想ないし期待感 (expectancy) が方向性を持って行動を促す時の要因を動機 (motive) と呼ぶ。

2 「態度」は認知的、情動的かつ能動的 (conative) な概念であるが、本稿で言及するのは主として言語態度 (language attitudes) である。目標言語・目標言語話者・目標言語集団に対して、あるいは相対的に自分の言語、文化、民族に対して言語学習者/言語習得者が感じる情意を反映した態度である。言語習得にプラスに働く場合とマイナスに作用する場合とがある。(cf. Gardner 1985, pp.8-11)

3 言語使用者当人にとって一番使いやすい言語。つまり、数を数えたり、とっさの時に発する言語。

の日本語」と定義しておく。なお、バイリンガルとしての日本語の習得は、山本(2000, pp.256-267)からもわかるようにごく少数である。

#### 留学生と社会人：

本稿で言う留学生とは、「日本語以外の言語を母語とし、現在日本に滞在して勉学研究に従事している学生で、その国籍は問わない」とした。アンケート調査にも日本国籍で中国語が母語の人が含まれている。

次に「社会人」という語だが、これは日本ではごく一般的に使われていて日本人なら了解してしまう語である。しかし「社会人」に相当する一単語の英訳はない。そこで本稿における社会人を「自己の意識の中で、一義的に学生としてのアイデンティティを持っていない成人」と定義する。英訳では a non-student adult とした。

### 1. 研究の視点と背景

#### 1-1 日本語習得に関わる社会的背景

第二次世界大戦以前の旧植民地においては、日本語教育は『国語』としての教育政策が採られ、現地住民にとっては第二言語／外国語でありながら国語としての使用を強要された。終戦後日本語教育は第二言語／外国語教育としてゼロから再出発した。日本はコロソボ計画に援助国として加入し（1954年）、技術研修生を受け入れ、国費留学生の招致を開始した。日中国交正常化（1972年）を境に、1980年代以降は中国からの帰国者とその家族、インドシナ難民などのポート・ピープルが増加した。日本経済の復興を背景に日本語の市場価値が上昇する中で、国内外での日本語学習者が増していき、留学生受け入れ十万人計画（1983年）などをきっかけに来日する留学生や就学生も増加した。これには中国、韓国など留学生を送り出す側の国内経済情勢も反映されている。1980年代は世界経済が不調で日本のいわゆるバブル経済が相対的に評価されて、一般社会においても東南アジアや中東地域から就労目的や国際結婚による流入が急増した。一般成人とその家族が来日するようになって、日本語習得の目的、ニーズも多種多様になり、言葉の問題だけでなく、アイデンティティや文化摩擦の問題も生じ始めた。

日本のいわゆるバブル景気が崩壊した1990年代には、就労目的の来日者はビザ取得の関係もあって中南米からの二・三世が増えた。アジアの経済危機・為替相場変動と呼応するように留学生数は一時減少したが、ここ3年ほど上昇に転じている。最近では情報技術関連の分野で南アジアからの来日者が増えてきている。

#### 1-2 研究の視点

本稿は社会生活の中での日本語習得動機づけを社会心理学的視点で調査する。「第二言語／外国語習得に関わる個人的要因」の枠組みと「動機づけ」の位置づけは、

Larsen-Freeman and Long(1991)、Altman (1980 in Ellis 1994)、Carroll(1981)等を参考にして次のように策定した。言語学習に関わる主な個人的要因を6要因と考える。

- ① 年齢 (Age)
- ② 言語適性 (Language aptitude)<sup>4</sup>
- ③ 個性 (Personality factors)
- ④ 社会心理学的要因 (Socio-psychological factors)
  - a. 動機づけ (Motivation)
  - b. 態度 (Attitude)
- ⑤ 認知スタイル (Cognitive style)
- ⑥ 学習方略 (Learning strategies)

この枠組み、すなわち6種に分けられた個人要因のうち社会心理学的要因としての動機づけという位置づけでリサーチを行う。

- ・対象者は、滞日成人外国人。
- ・言語コンテキストは、第二言語としての日本語。
- ・調査対象は、社会環境 (social setting)での言語動機づけで、学習環 (educational setting)に限らず、また状況・場面 (situation)を特定しない。
- ・動機づけの構成要素は、先行研究から策定した動機づけ (cf. p.114 資料2)のうち、社会環境に関連の深い統合的動機づけ (同化志向、統合志向、自己同一性志向)と道具的動機づけ (道具的動機、誘発的動機、権謀術数的動機)、それに包括的動機づけ (興味・好奇心、憧憬・偶像視、結果的動機づけ)を加えた3要素9要因を考察対象とする。

## 2. 調査の概要

### 2-1 調査の手法と目的

R.Gardner 等が外国語／第二言語に関わる情意要因の研究に質問紙を用いて以来、動機づけの強さや態度との関係を明らかにしようとする調査には心理尺度を用いることが多い。本稿も倉八(1992)と縫部・狩野・伊藤(1995)<sup>5</sup>とを参考に質問紙を作成した。前者は日本語学習者(滞日大学生)の動機と文化的背景の関連性を探る研究で、Gardner 等の研究を下敷きにして、「動機が出身地別に異なる」という仮説を立てて検証をし、アメリカ系の学習者は統合的動機、アジア系の学習者は道具的動機、ヨーロッパ系の学習者はアメリカ系の学習者に近く、日本で将来働くために日本語を学習しているという結果を得た。後者はニュージーランドの高校生と大学生の外国語学習コンテキストにおける日本語学習動機を調査した。アンケートにより日本語学習動機と来日経験の有無及び日本語学習期間との関連を調査し、統合的志向は来日経験がある方が高く、学習期間が長い方が高いこと、そして道

<sup>4</sup> 言語適性 (language aptitude) と動機づけについての考え方には異論がある。Pimsleur(1966 in Ellis 1994) は外国語学習能力の構成要素(components)を言語力 (verbal intelligence: 語彙力と分析力を含む)、言語を学習しようとする動機づけ、聴解力 (auditory ability)の3つである、と述べて動機づけを言語適性の構成要素の一つとしている。一方 Carroll(1981)は言語適性を 1. 音韻識別力(phonemic coding ability)、2. 文法性感受力 (grammatical sensitivity)、3. 帰納的言語学習能力 (inductive language learning ability) 4. 機械的暗記力 (rote learning ability) の4要素(factors)とし、動機づけは言語適性と共に言語学習に影響する個人的要因の一つとした。本稿では後者の立場をとる。

<sup>5</sup> 縫部等は次の2文献を参照してアンケートを作成。 Gardner & Lambert 1959 と T. Aschoff 1992 *Reasons for Studying Japanese Language in New Zealand Secondary Schools*, New Zealand Centre for Japanese Studies.

具的志向は学習経験によって異なり、学習期間が長い方が高いという結果を得た。この研究は高岸(2000)によって展開され、留学生の日本人に対する態度も日本語学習動機を強化する要素として重要であることが確認された

本稿は、学習環境に限らず、一般に日本社会で生活する中での成人外国人の日本語習得に関わる動機づけにはどのような傾向があるかを探査した。留学生(139人/80%)ばかりでなく、相対的には少数だが、社会人(34人/20%)からもアンケートの回答を得て分析した。調査項目としては、第一に回答者全員に共通する動機づけの傾向を探った。次に、留学生と社会人とで喚起される動機づけの傾向に違いがあるのか。三番目に、出身地域ないしは出身国別で傾向が異なるか。先ず漢字圏と非漢字圏に分けて傾向を見、後に同じ東アジアの国である中国出身者と韓国出身者とを比較した。四番目には、滞日年数や滞在予定期間による傾向の違いは何か。そして、そのような特徴をそれぞれが示す理由・原因は何だと考えられるか。さらに、日本人に抱くイメージを心理尺度で回答してもらって、動機づけとの関連を考察する。これも留学生と社会人との比較、出身国/地域別(漢字圏と非漢字圏)、滞日年数/滞日予定年数別による考察をする。

## 2・2 質問紙の構成

質問紙は、縫部・狩野・伊藤(1995)のアンケートを基に作成した。これは調査目的に動機の種類や学習期間を取り上げていて、本稿の目的と合致する部分が多いからである。しかし、縫部等のアンケートは大学生の外国語学習コンテキストにおける日本語学習動機を問うもので、本稿の扱う成人の第二学習コンテキストの動機づけとは異なる部分があると思われるので、7項目の内容を改訂し、10項目を補足して50項目とした。また動機づけに大きく関与すると考えられる態度要因を調べるために高岸(2000)が用いた「日本人のイメージ調査」の18項目を援用した。質問紙の構成は次の通り。

### 日本語習得に関する動機づけ

- Q1 回答者が現在日本語を学びたい/日本文化をもっと知りたいと思っているかどうか、すなわち日本語習得に動機づけられているか否かを問う。
- Q2 動機づけ調査 なぜそう思うのか、すなわち動機づけの有無に関する50項目の質問に <5(よくあてはまる) - 4(ややあてはまる) - 3(どちらとも言えない) - 2(あまりあてはまらない) - 1(全然当てはまらない)> の5段階尺度(Likert Scale)で回答してもらう。
- Q3 日本語を学び始めた理由、きっかけを自由記述で書いてもらう。(例を9例あげておく。)
- Q4 来日目的を自由記述で書いてもらう。(例を8項目あげておく。)
- Q5 態度調査 「日本人に抱くイメージ」を問う調査で、日本人に対してどんな印象を持っているかを、好ましいイメージから芳しくないイメージまで7段階尺度(Likert Scale)で答えてもらう。全18項目のうち2つは逆転項目とした。

フェイス・シート

F1 性別 F2 年齢: F3 母語/国籍 F4 日本滞在期間: 現在まで/これからの予定  
F5 日本語歴: 来日前/来日後 F6 現在の身分・立場: 学生か否か/私は\_\_\_\_です。  
(なお、Q3、Q4 の回答は今回の検証には積極的に使用しなかった。)

### 2-3 理論的枠組み

#### <動機づけ調査の枠組み>

縫部等(1995)、高岸(2000)の研究における枠組みは、動機づけを内発的動機と外発的動機とに大別し、前者に3項目(好奇心・関心、モデルとの同一視、仲間との相互作用)、後者に3項目(誘発的動機、統合的動機、道具的動機)、計6種の動機づけ因子を割り当てたものである。本稿においては、これ等を参考にはするが、枠組みとしては動機づけの喚起される場、すなわち、社会環境との関係による分類を基本にする。なぜなら、内発的動機づけと外発的動機づけの区分は極めて心理的要素が強いものであり、動機づけがどのように喚起されるのか、つまり、自己の心の内から動機づけられるものか、外部からの働きかけによるものかという心的プロセスを区別する概念であって、さまざまな場面において相互に喚起し合うもので、各種動機づけを内発的/外発的の二項対立に区分できるものではないと考えるからである。目標言語社会(Target Language community)との関係が強い統合的動機づけ、道具的動機づけと環境設定を規定しない包括的動機づけとを主たる分類項として、学習環境に多く見られる状況的動機づけ、課題達成動機づけも観察する。

#### <態度要因調査の枠組み>

態度とは目標言語(TL)話者についてあるいはTL話者に対して感じる情意で、行動に発露するものである(Gardner 1985, p.9)。TL話者への肯定的態度はそのTL習得を進める大きな要因となるという考えに基づいて、本論のTL話者である日本人に対して抱くイメージを岩尾・萩原<sup>6</sup>(1988 in 高岸 2000 p.110)の分類により、親和性、勤勉性、信頼性、先進性の4つに分けて考察した。18番目の「形式的—形式にこだわらない」は先進性に入っていたが、本稿では別枠にして「その他」とした。形式性は必ずしも先進性とは関連しないと考えたからである。

### 2-4 調査方法

調査依頼対象者(インフォーマント<sup>7</sup>)は東京外国語大学学部生及び大学院生、祖師谷留学生会館在館者、後楽寮在寮者等の留学生及び在日大韓基督教東京教会、立川市外国人のための日本語教室に通う社会人などで、アンケートを直接依頼・回収したり、在館者・

<sup>6</sup> 岩尾寿美子・萩原滋、1988『日本で学ぶ留学生—社会心理学的分析』(勁草書房)

<sup>7</sup> 言語習得研究の分野においては、調査対象者を被験者(a subject)と呼ぶことが多いが、本稿では情

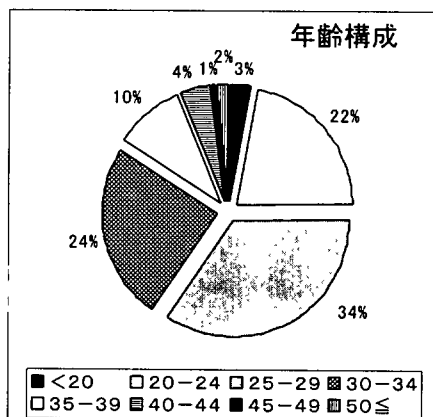
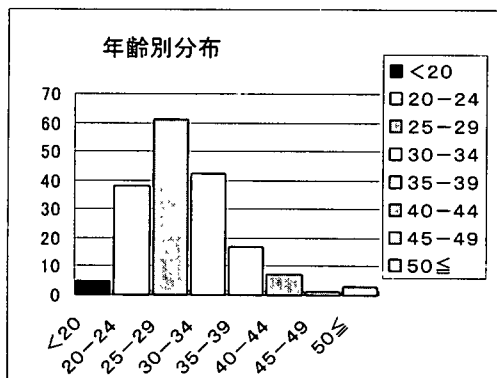
在寮者の郵便受けに配布して郵送で回収等の方法をとった。質問紙の配布数は全部で 513 部、回収数は 177 部であった。全体の回収率は 34.5%である。直接依頼してすぐに記入、回収したものの回収率はほぼ 100 パーセント、回収箱によるものは約 9 割、郵送による回収率は 2 割強であった。調査期間は 2000 年 6 月～9 月で、6 月末から 8 月中旬に質問紙を配布し、9 月末までの到着分をデータとしてエクセルにより集計、解析を行った。

### 3. 分析結果

#### 3.1 インフォーマントのプロフィール（フェイス・シート集計結果）

質問紙の回収数は 177 部であったが、遅着分をのぞいたインフォーマント数は全部で 174 名。Q2、Q5 の有効回答数はリストワイズして 166 名となった。男性が 74 名(43%)、女性が 100 名(57%)。また学生が 139 名、社会人が 35 名で、それぞれ 80%と 20%である。社会人 33 名のステータスは、仕事をしている人が 12 名、主婦が 12 名、研究職が 7 名、その他が 2 名である。各集計項目により有効回答数に多少のゆれがある。

<年齢構成> 平均年齢 29 歳（階級値より算出）



25-29 歳の年齢層がもっとも多く、35%を占め、20-34 歳の年齢層で全体の 80%に達する。これは在留外国人の年齢層は実働年齢層が多いと言う統計結果を反映する。

インフォーマントの出身地別の人数と母語別の人数は p.113 の<資料 3>に詳述した。地域別インフォーマント数では中国と韓国が約 6 : 4 の割合であったが、母語の数では中国語（台湾、香港出身者なども含まれる）と韓国語がほぼ同数を示した。これは中国籍の人（60 人）の中で韓国語／朝鮮語を母語とする人が 11 人いるからである。インフォーマントの母語の数は 37 言語にのぼった。

報を寄せてくれる人という意味合いでインフォーマント（an informant）と呼ぶことにする。

表・1 <地域別\*インフォーマント数>

コード	地域別	人数	パーセンテージ
1	西欧	12	6.9%
2	アングロ・アメリカ	2	1.2%
3	ラテン・アメリカ	12	6.9%
4	オセアニア	5	2.9%
5	アフリカ	4	2.3%
6	東アジア	104	59.5%
7	東南アジア	18	10.4%
8	南アジア	8	4.6%
9	中東	4	2.3%
10	CIS・東欧	4	2.3%
	(アジア)	1	0.6%
	合計	174	100%

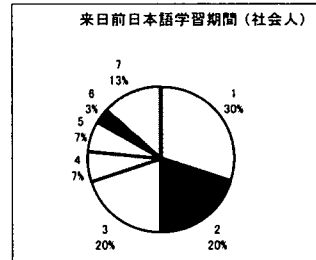
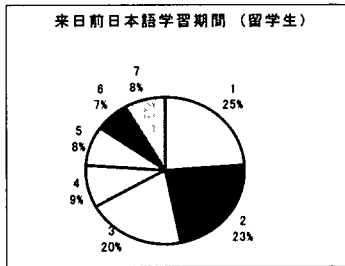
表・2 東アジア内訳

	人数	%
中国	60人	57.7%
韓国	40人	38.5%
他	4人	3.8%
計	104人	100.0%

<来日前の日本語学習期間>

地域別詳細は資料4(p.117)を参照のこと。

図・1 ①なし②1年未満③1~3年未満④3~5年未満⑤5~7年未満⑥7~10年未満⑦10年以上



このグラフからわかるように留学生と社会人の差があまりない。また、来日後の学習歴は大半のインフォーマントが滞り期間と同じと答えた。

<滞り期間>

地域別詳細は資料3(p.115)を参照のこと。

表・3 インフォーマントの日本滞在期間 有効回答数 172人

	日本滞在期間	非漢字圏	漢字圏	計	
留学生	来たばかり	0	0	0	138人 (100%)
	1年未満	13	12	25 (18%)	
	1年~3年未満	34	31	65 (48%)	
	3年~5年未満	5	17	22 (16%)	
	5年~7年未満	1	12	13 (9%)	
	7年~10年未満	2	8	10 (7%)	
	10年以上	0	3	3 (2%)	
社会人	来たばかり	1	0	1 (3%)	34人 (100%)
	1年未満	3	3	6 (18%)	
	1年~3年未満	5	5	10 (28%)	
	3年~5年未満	1	0	1 (3%)	
	5年~7年未満	1	4	5 (15%)	
	7年~10年未満	2	2	4 (12%)	
	10年以上	2	5	7 (21%)	
計		70	102		172人

8 世界の地域分けは United Nations Statistical Yearbook を参考にした。CIS (Commonwealth of Independent States) はソ連崩壊後に成立した「独立国家共同体」に加盟している 12 カ国。



予想されたことであるが、留学生の滞在期間では3分の2が3年未満であり、5年未満の人が8割を超えるのに対し、社会人では3年未満が約2分の1で、3年から5年の滞在者がごく少なく（3%）、中程度の期間（5年から10年）の割合が3割近くいて、10年以上の滞在者も2割強である。この結果から推察されることは、社会人として日本に滞在する人は短期滞在者（3年未満）と中長期滞在者（5年以上）とに二分される。おそらくは短期の就労目的の人と、日本でじっくり腰を落ち着ける人との差が出たのであろう。この差が動機づけに反映されるであろうか。

#### ＜滞日予定期間＞

地域別詳細は資料4（p.117）を参照のこと。

表-4 インフォーマントの日本滞在予定期間 有効回答数 172人

	日本滞在期間	非漢字圏	漢字圏	計	
留学生	1年未満	9	9	18 (13%)	138人 (100%)
	1年～3年未満	21	25	46 (33%)	
	3年～5年未満	15	22	36 (27%)	
	5年～7年未満	2	6	8 (6%)	
	7年～10年未満	0	1	1 (1%)	
	10年以上	0	0	0 (0%)	
	永久に	0	4	4 (3%)	
	未定	8	16	24 (17%)	
社会人	1年未満	0	6	6 (18%)	34人 (100%)
	1年～3年未満	4	1	5 (15%)	
	3年～5年未満	1	2	3 (9%)	
	5年～7年未満	0	1	1 (3%)	
	7年～10年未満	0	0	0 (0%)	
	10年以上	1	0	1 (0%)	
	永久に	3	4	7 (21%)	
	未定	6	5	11 (31%)	
	計	70	102		172人

これからどの位日本に滞在する予定かを聞いてみた結果が表-4である。

これも当然のことながら、留学生の滞在予定は短く、5年未満が約4分の3を占める。一方社会人では5年未満は36%、5年から10年の予定者は非常に少なく、永住予定者が2割以上いる。また「未定」と答えた人は留学生で17%、社会人では31%に上る。

#### 3-2 動機づけ調査の結果（質問紙 Q2 の回答結果）

インフォーマントに5段階尺度で答えてもらった各項目の平均値と標準偏差を出し、動機づけの枠組みによりグループ化してその平均を出した。

#### ＜インフォーマント全体の傾向＞ 有効回答 166

まず、集計・分析したインフォーマント全体の結果について、動機づけの種類による分類ごとに、質問項目と平均値、標準偏差値とを列記する。（m\_はアンケート Q2 での設問番号をさし、M\_は動機づけのクラスターごとに並べ替えたものをさす。これは後述する相関行列を作る際に用いた動機づけ番号である。）なお、最小値と最大値は全項目 1 及び 5 であった。太字は平均値が中央値を上回ったことを表す。

統合的動機づけ	設問項目	平均値	標準偏差	内容		
同化的志向	m34	1.81	1.05	日本人との結婚	M1	
	m38	3.2	1.13	日本語が上手になって認められたい	M2	
	m39	2.57	1.25	自分のこどもに日本語を教えたい	M3	
	m40	2.6	1.1	日本人社会の一員になりたい	M4	
	m48	2.6	1.3	日本にずっと住みたい	M5	
統合的志向	m01	3.6	0.86	日本が好き	M6	
	m05	3.99	0.79	日本人をもっと理解したい	M7	
	m07	1.67	0.8	日本の宗教を信仰している	M8	
	m09	2.88	1.01	日本の映画や芸能が好き	M9	
	m20	3.84	0.88	日本語のTVや映画をもっとわかるようになりたい	M10	
自己同定志向	m35	2.05	1.15	自分のルーツを知りたい	M11	
	m36	2.25	1.29	日本語を話す一大家族と日本語で話したい	M12	
道具的動機づけ						
道具的動機	m08	3.43	1.15	日本をもっと旅行したい	M13	
	m11	3.42	1.13	日本の技術を学びたい	M14	
	m12	2.99	0.88	日本の制度や法律を学びたい	M15	
	m17	3.63	1	日本語で新聞や雑誌が読みたい	M16	
	m18	3.58	0.97	日本語で小説や随筆が読みたい	M17	
	m19	3.88	0.98	日本語で論文を読んだり書いたりしたい	M18	
	m21	2.9	1.25	進学の(テストの)為	M19	
	m29	2.2	1.17	卒業の(テストの)為	M20	
	m32	2.46	1.22	日本語の先生になりたい	M21	
	m33	3.95	0.96	日本で専門の研究を続けたい	M22	
	m41	3.22	1.22	会社でのコミュニケーションの為	M23	
	m42	3.19	1.25	日本で(より)良い仕事に就きたい	M24	
	m43	3.67	1.11	帰国後日本語を使って就職したい	M25	
	m45	3.98	0.95	国際的な仕事がしたい	M26	
	m49	3.46	1.17	日常生活を楽にする為	M27	
	誘発的動機	m14	3.41	1.04	母国の文化の理解が深まる	M28
		m22	1.86	1.02	家族の薦めで	M29
m26		3.29	1.24	テストで良い点を取りたい	M30	
m28		2.84	1.04	日本語に自信が無い	M31	
m37		2.41	1.21	日本語が上手になると家族が喜ぶ	M32	
m44		3.9	0.86	将来有利になる	M33	

第二言語としての日本語習得に関わる動機づけ

	m46	3.67	1.06	国際語の一つとして知っていると有利	M34
	m47	3.49	1.04	教養の一つとして	M35
	m50	3.07	1.08	近所や地域の活動に参加したい	M36
包括的動機づけ					
興味／好奇心による動機づけ					
	m02	3.8	0.76	日本語が好き	M37
	m03	3.28	0.81	日本人が好き	M38
	m04	4.01	0.71	日本の文化や歴史をもっと知りたい	M39
	m06	3.34	0.96	日本の伝統芸術、武術などに興味がある	M40
	m10	3.11	0.75	日本文学が好き	M41
	m13	3.45	1.02	日本語と母語との違いに興味がある	M42
	m15	3.61	0.94	日本語の勉強が面白い	M43
	m25	4.05	0.77	日本語の上達が嬉しい	M44
憧憬／偶像視による動機づけ					
	m30	2.7	1.29	日本語の先生がすてき	M45
状況的動機づけ					
協同的動機づけ					
	m24	2.97	0.99	日本語のクラスが楽しい	M46
	m27	3.02	1.08	友達と一緒に頑張る	M47
競争的動機づけ					
	m23	2.8	1.2	友達／同僚に負けたくない	M48
達成志向動機づけ					
	m31	3.87	0.9	始めたからには上手になりたい	M49
なお、項目 16 は分類するには情報不足であり該当外とした。					
	m16	3.18	0.97	日本語は難しい	M50

本稿では、教室内などの学習環境に限らず、一般社会環境での習得動機づけを観察しようとしているので、状況的動機づけと達成志向動機づけについては詳しい考察はしないが、インフォーマント全体でもまたどのグループ分けにおいても達成志向動機づけに大きい数値が出たことは興味のある結果である。主眼点である統合的動機づけ、道具的動機づけ、興味・好奇心による動機づけの中では「興味・好奇心」に分類された諸項目に高い数値（4以上）が出たものが2項目あった。「道具的動機」では15項目中11項目が3以上を示し（＝動機づけられている）、6項目はが3.5以上を示した。統合的志向も5項目中3項目が3.5以上であった。各動機づけの平均値は次の通りである。

1) 同化的志向	2.56	統合的志向	3.2	自己同定志向	2.15
2) 道具的動機	3.33	誘発的動機	3.1		
3) 興味／好奇心	3.58	憧憬／偶像視	2.7		
状況的動機づけ	2.94	達成志向	3.87		

次に社会生活に関わる動機づけの主な要素 3 種の平均値を出して比較検討の材料とした。インフォーマント全体の場合、(1)統合的動機づけの平均値は 2.75、(2)道具的動機づけの平均値は 3.24、(3)包括的動機づけの平均値は 3.48 である。

以下の各グループ間の比較検討においても、数値をグラフ化して傾向を見たのだが、紙幅の関係上、インフォーマント全体と永住予定者のグラフを資料 5、6 として例示しておく。(pp.118-119 参照。)

<グループ分けによる分析>

以下同じ手順で、学生と社会人、非漢字圏と漢字圏、韓国出身者と中国出身者、長期滞在予定者／永住予定者、中長期滞在者／長期滞在者のグループに分けて各々のインフォーマントを抽出し、グループごとの特徴や傾向を見る為の分析をした。先ず各動機づけの構成要素ごとの平均値を求め、次に、統合的動機づけ、道具的動機づけ及び包括的動機づけの尺度平均値を出して比較した。なお、長期滞在予定者とは 10 年以上の日本滞在を予定している人達を指す。この区分は、インフォーマントのプロフィールを見た際に特に社会人においては短期予定の人と長期予定の人の分化が際立っていたからである。これは「予定」を聞いたために漠然と短期か長期かで回答が二分されたのだと考えられる。また滞日期間では中長期（5 年以上）と長期（10 年以上）とに分けたが、これは比較的長期に滞在している人の傾向をまず見て、その中で 10 年以上の人がどのような傾向に変化するかを見たかったからである。以上の観点から分類してまとめたものが表・5、表 6 である。

表・5 動機づけ尺度のグループ別平均値 (尺度中央値は 3)

		全体	学生	社会人	非漢字圏	漢字圏
統合的動機づけ	同化的志向	2.56	2.52	2.7	2.79	2.4
	統合的志向	3.2	3.17	2.3	3.47	3
	自己同定志向	2.15	3.1	2.2	2.26	2.07
道具的動機づけ	道具的動機	3.33	3.36	3.2	3.56	3.17
	誘発的動機	3.1	3.04	3.4	3.34	2.94
包括的動機づけ	興味・好奇心	3.58	3.6	3.7	3.75	3.46
	憧憬・偶像視	2.7	2.25	3.4	3.51	2.13
状況的動機づけ		2.95	2.87	3.3	3.27	2.71
達成動機づけ		3.86	3.84	4.0	3.9	3.85
有効回答数		166	133	33	68	98

		韓国	中国	長滞予定・永住予定	中長滞在・長期滞在
統合的動機づけ	同化的志向	2.46	2.37	3.12	3.62
	統合的志向	3.03	2.99	3.62	3.84
	自己同定志向	2.16	2.01	2.98	3.5
道具的動機づけ	道具的動機	3.24	3.12	3.66	3.77
	誘発的動機	2.98	2.91	3.62	3.9
包括的動機づけ	興味・好奇心	3.52	3.43	4.01	4.26
	憧憬・偶像視	1.98	3.24	3.2	3.9
状況的動機づけ		2.79	2.66	3.48	3.97
達成動機づけ		3.98	3.76	4.4	4.6
有効回答数		40	68	20	11

全インフォーマント数に占める学生の割合が多いので（133/166）、全体の傾向と学生の傾向はほとんど変わらないが、学生と社会人とは動機づけの種類によって傾向が異なる。たとえば、統合的志向は学生の方が高く、憧憬・偶像視では社会人の方が高い数値が出ている。非漢字圏と漢字圏を比べると、どの動機づけクラスターでも非漢字圏の方が高い数値を示している。つまり非漢字圏のインフォーマントの方が漢字圏の人たちより、日本語習得の動機づけが強いことになる。非漢字圏の人は自己同定志向や同化的志向はないが、その他の動機づけはすべて喚起されている。他方、漢字圏の人は興味と道具的動機以外は動機づけが喚起されていない。その漢字圏を二分する中国と韓国は傾向としてはほとんど同じで、動機づけの強さはわずかに韓国が勝っているが、憧憬・偶像視は中国が 3.24（韓国は 1.98）と高位を示している。

日本での滞在期間及び滞在予定期間と動機づけの関係を見た結果は次のとおりである。中長期滞在者（滞日期間が5年以上）よりも長期滞在者（10年以上）の方が全般的にどの動機づけも強化される。しかしそれよりもっと顕著に動機づけられているグループは長期滞在予定者である。その中でも永住予定者はすべての動機づけが尺度中央値を大きく上回った。つまり、どの動機づけも一様に高く喚起されているのである。また、社会人グループと非漢字圏グループの動機づけの起こり方と強さが類似している。

表-5の結果を集約して、学習環境で多く見られる動機づけ（状況的動機づけと達成志向動機づけ）を除き、3つの動機づけにまとめたのが表-6である。前記の傾向がはっきりと窺われるが、ここでは各グループ内で喚起される動機づけの強さの順番に注目したい。強さの差こそあれ、順番はどのグループも1番は包括的動機づけであり、2番が道具的動機づけで、3番が統合的動機づけである。

表-6 社会生活上の動機づけ3要素の尺度平均（尺度中央値は3）

	全体	学生：社会人		非漢字圏：漢字圏		韓国：中国	
統合的動機づけ	2.76	2.7	2.9	3	2.6	2.6	2.6
道具的動機づけ	3.25	3.2	3.3	3.5	3.1	3.1	3
包括的動機づけ	3.48	3.4	3.7	3.7	3.3	3.3	3.3
有効回答数	166	133	33	68	98	40	68
		長期滞在 予定者	永住 予定者	中長期 滞在者	長期 滞在者		
統合的動機づけ	3.3	3.7	2.7	3			
道具的動機づけ	3.6	3.8	3.1	3.3			
包括的動機づけ	3.9	4.2	3.4	3.5			
有効回答数	20	11	40	9			

### 3-3 日本人に抱くイメージ調査の結果\_（質問紙Q5の回答結果）

日本語習得の際の態度に関わる要因として日本人に対して抱くイメージを1-7の尺度で回答してもらった結果から各項目の平均値と標準偏差値を出した。動機づけの傾向との関連を補足的に考えるためである。

### ＜日本人に抱くイメージ＞ 有効回答 166

設問項目	平均値	標準偏差	最小値	最大値	尺度中央値	4
親和性	a1	4.1	1.6	1	7	あたたかい 7-6-5-4-3-2-1 つめたい
	a2	4.7	1.4	1	7	親しい ——— 不親切な
	a3	4.1	1.7	1	7	気前がいい ——— けちな
	a4	3.3	1.6	1	7	偏見のない ——— 偏見をもっている
	a5	2.9	1.6	1	7	家族を大切にす ——— 仕事中心である
勤勉性	a6	5.8	1.4	1	7	勤勉 ——— 怠惰
	a7	5.1	1.5	2	7	競争心が旺盛 ——— 競争心がない
	a8	4.9	1.4	1	7	思慮深い ——— 思慮が浅い
	a9	5.4	1.3	2	7	行儀がいい ——— 行儀が悪い
信頼性	a10	5.7	1.2	2	7	責任感が強い ——— 責任感がない
	a11	5.1	1.5	1	7	信頼できる ——— 信頼できない
	a12	4.9	1.6	1	7	正直 ——— うそつき
先進性	a13	4.2	1.7	1	7	進歩的 ——— 保守的
	a14	4.1	1.7	1	7	達成感志向 ——— 地位・資格志向
	a15	3	1.7	1	7	性別で差別しない ——— 性別で差別する
	a16	3.7	2.2	1	7	個人主義的 ——— 集团的
	a17	4	1.6	1	7	民主的 ——— 権威主義的
(その他) a18	5.8	1.2	1	7	形式的 ——— 形式にこだわらない	

以上からわかるように、全体の傾向としては日本人に対して勤勉性と信頼性を高く評価している。親和性と先進性は項目により、マイナス評価もある。親和性では親しさはそこそこ感じてはいるが、日本人は偏見をもっていて、仕事中心で家族をないがしろにすると感じている。また先進性では性差による差別を感じとっていることがわかる。

### ＜各グループごとの日本人に抱くイメージ＞

同じ手順で各グループごとの尺度平均値（尺度中央値は4）と標準偏差、最小値、最大値を出して検討した。前記インフォーマント全体の観察と同様、概ねどのグループも日本人に対しては勤勉性と信頼性を評価する結果が出た。学生と社会人を比べると、社会人が勤勉性と信頼性以外にも親和性の3項目（a1 あたたかい、a2 親しい、a3 気前がいい）をプラスに評価している点が注目点である。非漢字圏と漢字圏の比較では非漢字圏が信頼性を、漢字圏は勤勉性を第一に挙げている。漢字圏の中では、中国はインフォーマント全体の結果と似た傾向を示していて、勤勉性が高く、信頼性もプラスに評価しているが、韓国は相対的に評価が低い。勤勉性だけは全要素がプラスだが、数値は高くない。標準偏差

の値が高いことから、韓国人の日本人に抱くイメージが人によりさまざまであることが窺われる。

滞日期間との関係では、中長期滞在者や長期滞在予定者がクラスター単位（勤勉性と信頼性）で同様の評価をしているのに対し、長期滞在者は項目ごとに反応している。評価する項目（a6、a7、a9、a10）には高い値を示すが、同じクラスターでもマイナスを示すものもある。永く日本に住んで、日本人をイメージとして捉えるのではなく、実態としての日本人を知っている結果であろうか。滞日期間に関連して、林（1990、p.49）は外国人学習者が日本社会へ適応していく間には、出身国による違いや個人差に多少の違いはあるにしても、ほぼ同じようなパターンを経験するとして、次の5期をあげている。(1) 移住期／入国期（期待と不安はあるが、すべてが新鮮で、無我夢中の時期。）(2) 不満期（何に対しても誰に対しても不満を感じる時期。カルチャー・ショックの時期でもある。）(3) 諦観期（日本はこういうところだと諦めのつく時期。日本・日本人をありのままに受け入れようとする時期でもある。）(4) 適応期（無理なく日本の生活に適応している状態。）(5) 望郷期（ホーム・シックにかかり、帰国したいと思う時期。）本稿でいう中／長期滞在者とは、林の適応パターンの諦観期や適応期に入っている外国人ということであろう。

### 3-4 動機づけと態度の相関性

次に動機づけの各項目と日本人のイメージの各項目との相関関係の有無を見る。M1～M50×a1～a18の相関係数を求め相関行列を作成して資料7（p.120）に示す。求められた相関係数は有意水準を満たすものが多くあったが、強い相関を示すものはなかった<sup>9</sup>。しかし興味・好奇心による動機づけは親和性を示すa1、a2、a3や信頼性を示すa11、a12、それに先進性を示すa14、a17との相関関係が示された。また、統合的動機づけの中で、同化的志向は態度要因とはほとんど相関関係を示さないが、統合的志向は親和性、信頼性、先進性との関連を明らかに示唆している。道具的動機づけでは、道具的動機ははっきりした関連性を示さないが、誘発的動機には先進性との関連が見て取れる。こうして動機づけと態度要因との関連を相関行列から考察した結果、興味・好奇心による動機づけと統合的志向は日本人に対する態度において同じような傾向をもっていることがわかる。

## 4. 考察

### インフォーマントについて

今回のインフォーマントの出身国を見ると、北米圏（アングロ・アメリカ）が非常に少

<sup>9</sup> 相関係数から相関関係の強弱を判断する目安は：  
 $0.7 \leq |r| < 1.0$  →強い相関あり  
 $0.4 \leq |r| < 0.7$  →中程度の相関あり  
 $0.2 \leq |r| < 0.4$  →弱い相関あり  
 $0 < |r| < 0.2$  →殆ど相関なし  
（鎌原等 1998『心理学マニュアル 質問紙法』北大路書房 p. 146より）

なく、中南米（ラテン・アメリカ）が相対的に多数であるが、その他の割合は母語が日本語のいわゆる在日コリアンを除く滞日外国人数を概ね反映していると思われる。ただし、留学生の割合が多いこと、しかも大学ないし大学院在学生在がほとんどであることや社会人33名中に研究職が7名（2割強）いることなどを考え合わせると、回答者の母集団としては相当学歴の高い、言語習得にかなりの興味ないし必要性を感じている滞日外国人と考えなければならない

### 考察-1 日本語習得に関わる動機づけのパターン

第一に、日本語習得に関わる動機づけの特徴を考察する。「社会的動機づけの3要素」を比較検討した。するとインフォーマント全体でも、グループごとでも例外なく、動機づけの強さは第一に包括的動機づけ、第二に道具的動機づけ、第三に統合的動機づけの順位であった。各グループを比べると、尺度平均値の程度には差があるが、つまり動機づけの強さには違いが見られるが、日本語習得の動機づけパターンは一様であった。

なお、この包括的動機づけは、Gardner等の伝統的な統合的動機づけと道具的動機づけのディコトミーでは、統合的動機づけに分類される動機づけである。

### 考察-2 地域差、ステータスの違いと動機づけ

考察-1の結果を踏まえて、動機づけの強弱にグループ差があるのかどうかを検討した。上記3要素の尺度平均値で比べた場合、非漢字圏と漢字圏の差が顕著であった。統合的動機づけ、道具的動機づけ、包括的動機づけの平均値がそれぞれ、非漢字圏3.0/3.5/3.7対漢字圏2.6/3.1/3.3で、非漢字圏の方が動機づけの程度が強いという結果が出た。動機づけの低い漢字圏では中国（2.6/3.0/3.3）も韓国（2.6/3.1/3.3）もほとんど同じ数値を示している。社会人（2.9/3.3/3.7）と留学生（2.7/3.2/3.4）との比較では、わずかな差ではあるが、社会人の方が強く動機づけられている。

以上の結果から言えることは、非漢字圏と漢字圏、社会人と学生など地域差やステータスの違いは動機づけのパターンにではなく、動機づけの強さにあらわれる。

### 考察-3 社会人に見られる日本語習得動機づけ

次に考察-1で見た動機づけ3要素を構成要素のレベルで分析した。先に述べたとおり、学習環境で多く見られる動機づけ（状況的動機づけと達成志向動機づけ）を除いた社会環境に関わる動機づけのうち、自己同志志向や憧憬／偶像視は個人間のゆれが大きく（標準偏差が共に1.29）、極めて個人的な背景に関わる動機づけと言える。この2つを除いて、同化的志向、統合的志向、道具的動機、誘発的動機、興味・好奇心による動機づけの5項目で全体の傾向と各グループの傾向を検討してみると、すべてのグループに共通して、興味・好奇心による動機づけが一番強くあらわれている。インフォーマント全体でも、留学生、



社会人でも、地域差もなく、滞在期間や滞在予定にも関係なく、第二言語としての日本語習得は興味・好奇心によってもっとも強く動機づけされていることがわかった。

#### 考察-4 日本人に抱くイメージと動機づけの関連性

日本人に対して抱くイメージで全般的に評価が高かったのは、勤勉さ (a6)、責任感の強さ (a10)、行儀のよさ (a9) の3項目であったが、それが必ずしも同程度の信頼感の高さ (a11) につながるわけではない。非漢字圏や長期滞在予定者には日本人に対する信頼性があるが、漢字圏や長期滞在者にとって日本人への信頼性はマイナス評価ではないものの、高い評価とは言えない。それにこれらの項目は相関行列の数値を見ても有意ではあるがほとんど動機づけとの関係性は見られない。この3項目や勤勉性を示す他の2項目 (a7 競争心、a8 思慮深さ) など個人的資質や性格を表す項目には動機づけとの関連性が見られず、他人との関わりを示す「親和」項目や「信頼性」の項目に統合的動機づけと興味・好奇心による動機づけとの関連性が示唆されているのは当然と言える。また、先進性を表す項目には統合的志向、誘発的志向、興味・好奇心など社会事情が影響する動機づけとの相関が見られた。総じて評価の高かった「勤勉性」と「信頼性」に加えて、「親和性」「先進性」項目にプラス評価の多いグループ (社会人/非漢字圏/長期滞在予定・永住予定者) が相対的に日本語習得に強く動機づけされているグループでもある。日本人の勤勉性と信頼性は多くの人が高く評価しているが、日本人に親しみを感じ、先進性の面でプラス評価をしている人たちが日本語習得にも強く動機づけられているという結果である。これは高岸 (2000) の論考と同じ結果である。一方長期滞在者は日本人に対して、イメージではなく、実像で評価をしているものと考えられ、特に親和性の各項目にはマイナス評価が多くなっている。

#### 考察-5 同化的動機づけは長期滞在者にはなく長期滞在予定者に喚起される。

長期滞在予定者、殊に永住予定者は他のグループとは異なり、どの動機づけもバランスよく喚起されている。そして他のグループでは見られない同化的動機づけの喚起がみられる。 滞在期間が長いだけでは同化志向は表れない。 これは何を意味するのであろうか。同化志向が表れるということは、日本語の習得という面から考えると外国語としてではなく、狭義での第二言語としての日本語の習得を目指す、ということではないだろうか。本稿では最初に「第二言語としての日本語」を「滞日外国人が使用する生活語としての日本語」と定義したが、それは広義の「第二言語としての日本語」であり、日本語を習得しようとする人が日本社会に同化しようとする時に初めて狭義の「第二言語としての日本語」の習得と言えるのではないだろうか。日本社会に住む外国人でも統合的志向 (統合的動機づけの構成要素としての統合的志向) のみが喚起されている間は、無意識に日本語を外国語として捉えているのではないかと思われる。それは大学院で学ぶ多くの留学生との会話

や日本に帰化ないし永住を希望する人たちとの会話の中からも相違が感じられる。日本語の巧拙とは関係がない。また滞在予定期間で未定の人割合が社会人に特に多い(31%)ことも何らかの示唆を与えているのではないだろうか。滞日外国人が日本語を意識する時、広義の第二言語としての日本語には二相がある、つまり外国語としての意識と狭義の第二言語としての意識があると考察される。この「外国語」と「狭義の第二言語」の意識の差は、滞日期間の長さではなく、同化志向をもつかどうかの差ではないかと考える。

## 5. おわりに 一結論と課題

日本語習得に関わる動機づけの傾向が、どのグループにおいても第一に包括的動機づけであったこと、さらに Keller が提唱して以来学習環境での興味・好奇心による動機づけが多く、多くのリサーチで検証されているが、本稿は社会人の動機づけもまた興味・好奇心による動機づけが一番の要素であることを確認した。

また、統合志向は長期滞在者にも長期滞在予定者にもあらわれるが、同化志向は長期滞在予定者のみに表れるという結果から、第二言語としての日本語に二相があることを考察した。母語と同様の必要性、重要性を日本語に感じている日本に長期滞在を予定している人達、特に永住を希望している人達へのサポートは、Masgoret & Gardner (1999) の移民の社会適応モデルも示唆しているように、ことばだけでなく文化・習慣など広範囲にわたるものでなければならない。

日本社会においても同化志向を持つ外国人が増加しつつあることはまた、バイリンガルで育つ子供の増加をも意味する。国際結婚、特にアジア出身者と日本人の結婚や一部産業界の要請でもある中南米からの出稼ぎの家族が増加している今日、その子供達のアイデンティティ形成を考えれば、減数的バイリンガルにならぬよう、学校教育中での「日本語教育」と共に、「母語の保持教育」を考える必要が出てくると思われる。成人にとっても母語の保持はアイデンティティのありかと共に大切であり、スウェーデンなどの例に学んで「母語の保持学級」を設けるなど今後の課題は多い。

個人的な研究上の課題としては、今回使わなかったアンケートの回答(Q3とQ4)を参考にして、意識に上るニーズと動機づけの関係を研究したい。

### 主要参考文献

- 井上孝代(1996)「外国人留学生のアカルチュレーション態度と留学生生活の満足度」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』22号(pp. 209-221)
- 井上史雄(1999)「世界の言語状況と日本語の市場価値」『国際社会と日本語』第6回 国立国語研究所国際シンポジウム報告書
- 金子智栄子(1990)「やる気-動機づけ」田島信元等編著『発達と学習-現代教育心理学のすすめ』福村出版
- 倉八順子(1992)「日本語学習者の動機に関する調査-動機と文化的背景の関連-」『日本語教育』77号(pp. 129-141)
- ――(1994)「第二言語習得における個人差」『教育心理学研究』42(pp.55-65)
- 高岸雅子(2000)「留学経験が日本語学習動機におよぼす影響-米国人短期留学生の場合-」『日本語教育』105号(pp.101-110)

- 中川まち子 (2001) 「第二言語習得研究における動機づけの研究小史 —社会心理学的視点を中心に—」  
『比較・国際教育学研究』第三号 (pp.38-47) 東京外国語大学 比較・国際教育学研究室
- 縫部義憲・狩野不二夫・伊藤克浩 (1995) 「大学生の日本語学習動機に関する国際調査 —ニュージーランドの場合—」『日本語教育』86号 (pp.162-173)
- 林伸一 (1990) 「外国人学習者の日本社会への適応パターンと日本語教育の課題」『日本語教育』70号 (pp.49-59)
- 町田喜義 (1987) 「英語学習と学習者の情意的要因」『獨協大学外国語研究』第6号 (pp. 77-97)
- 三登由利子等 (1996) 「一時滞在者としての外国人留学生の適応戦略と日本語学習」『日本語教育』91号
- 宮島達夫 (2000) 「日本語研究の国際化」『国語学』200集 (pp.61-63)
- 山本雅代 (2000) 『日本のバイリンガル教育』 明石書店
- Berry, J.W. (1980.) "Acculturation as varieties of adaptation" in A.M. Padilla (ed.) *Acculturation: Theory, Models, and Some New Findings* (pp.9-25). Boulder CO : Westview.
- Brown, H.D. (1994). *Principles of Language Learning and Teaching* (3rd edition). New Jersey: Prentice-Hall.
- Carroll, J.B. (1981). "Twenty-five years of research on foreign language aptitude" in K. Diller (ed.) *Individual Differences and Universals in Language Learning Aptitude*. Rowley, Mass.: Newbury House.
- Deci, E.L.(1978). "Applications of research on the effects of rewards" in M. Lepper & D.Greene (eds.) *The Hidden Costs of Reward: New Perspectives on the Psychology of Human Motivation*. pp.193-203. Hillsdale, NJ: Lawrence Erlbaum Associates.
- Ellis, R.(1994). *The study of Second Language Acquisition*. Oxford: Oxford University Press.  
----(1997). *Second Language Acquisition*. Oxford: Oxford University Press.
- Gardner, R.C.(1960). "Motivational variables in second language acquisition," (Abstract of unpublished doctoral dissertation, McGill University 1960, in Gardner 1972).  
----(1985). *Social psychology and second language learning: The role of attitudes and motivation*. London: Edward Arnold.  
----(1991)."Attitudes and Motivation in Second-Language Learning". in A.G. Reynold (ed.) *Bilingualism, Multiculturalism, and Second Language Learning*. New Jersey: Lawrence Erlbaum Associates.
- Gardner, R.C. and Lambert, W.E. (1959)."Motivational variables in second language acquisition" (Abstract in Gardner 1991) *Canadian Journal of Language and Psychology*.  
----- (1972). *Attitudes and Motivation in Second-Language Learning*. Rowley: Newbury House.
- Gass, S.M. and Selinker, L. (1994). *Second Language Acquisition*. New Jersey: Lawrence Erlbaum Associates.
- Giles, H. and Byrne, J.L. (1982)."An Intergroup Approach to second language acquisition" *Journal of Language and Social Psychology* 5 (pp.291-302).
- Krashen, S.D. (1981). "Aptitude and Attitude in Relation to Second Language Acquisition and Learning." In K.C. Diller (Ed.) *Individual Differences & Universals in Language Learning Aptitude* (pp.155-175).
- Larsen-Freeman, D. and Long, M.H. (1991). *An Introduction to Second Language Acquisition Research*. New York: Longman.
- Maslow, A.H. (1970). *Motivation and Personality, Second Edition*. New York: Harper & Row.
- Masgoret, A.M. and Gardner, R.C. (1999). "A causal Model of Spanish Immigrant Adaptation in Canada". *Journal of Multilingual and Multicultural Development*, vol.20. (pp.216- 236).
- Schumann, J.H. (1978). "The Acculturational Model for Second Language Acquisition and Foreign Language Teaching" in R.Gingras (Ed.) *Second Language Acquisition and Foreign Language Teaching* (pp.28-50). Arlington, VA: Center for Applied Linguistics
- Spolsky, B. (1969). 'Attitudinal aspects of second language learning' *Language Learning* 19. (pp.271-283)  
----(2000). "Language Motivation Revisited". *Applied Linguistics* vol.21,no.2 (pp.157- 169).
- Tremblay, P.F. and Gardner, R.C. (1995). "Expanding the Motivation Construct in Language Learning", *The Modern Language Journal* 79, no.4 (pp.505-518).
- Ushioda, E. (1996). *Learners Autonomy 5. The Role of Motivation*. Dublin: Authentik.
- Wentzel, K. R. (1999)."Social-Motivational Processes and Interpersonal Relationships: Implications

for Understanding Motivation at School” in *Educational Psychology* vol. 91, no.1 (pp.76-97)  
Yoshitomi, A. (1990). “Attitudes and Motivation of Japanese High School Student In Learning English as a Foreign Language “. *Sophia Linguistica—Working Papers in Linguistics—No.28* (pp.111-127). Sophia University, Tokyo.

<公文書資料>

外務省編 (1998)『外交青書 1998—21世紀に向けた日本外交—国際社会の新たな動きと新たな課題』  
外務省編 (1999)『外交青書 1999』  
総務庁統計局監修 (1997)『統計で見る日本 1997/98』 日本統計協会  
文部省編 (1999)『平成 11 年度 我が国の文教施策—進む「教育改革」』(教育白書)

<資料1> 言語習得の4相

① 母語としての習得。 母語 (mother tongue)の習得は日本、韓国のような単一言語社会においても、アメリカ、カナダ、インド、インドネシア、マレーシア、アフリカ諸国などの多言語社会においても等しく、母語は「生後まず習得される言語」を言う。単一言語の社会では母語＝第一言語で、母語が失われることはないが、多言語社会では、マイノリティの子供は社会の規範言語や学校における教授言語の影響で第一言語が生得言語 (native language) からシフトしてしまうことがある。

② 第二言語としての習得。 一般的には多言語社会において見られる言語習得相で、第二言語とは、所属する社会で広くコミュニケーション手段となっている母語以外の言語をさす。言語習得研究では第一言語以外の第二、第三、第四…言語などをまとめて「第二言語 (L2)」と呼ぶ (Ellis 1994, 1997)。第二言語の習得が起こるコンテキストは、所属社会の規範言語が自分の母語とは異なる場合である。例えば、自然習得環境では、ブラジルにおける日本人移民にとってのポルトガル語のように第二言語が帰属社会の規範言語であり公用語である場合や、ヒンディー語を母語とするインド人にとっての英語のように、第二言語が公用語であるが生活語ではない場合などである。日本においても日本語を全く知らずに働きに来日した外国人が仕事の現場で身につけて行く日本語はこれにあたる。

(教育環境における第二言語習得には二様があって、サブマージョン・プログラム (submersion programme) によるものと、イマージョン・プログラム (immersion programme) によるものがある。マイノリティの子供が第二言語であるマジョリティーの言語をその第二言語で教わる状況 (situation)、例えば、ブラジルでかつて日本人移民の子弟 (少数) がブラジル人の中で、ポルトガル語で学校授業を受けた事例はこれに当たるが、このような教育体制をサブマージョン (submersion) という。日本においても中国からの帰国者の子供 (母語は中国語) が学校で大勢の日本人の中で日本語で授業を受けているが、これはサブマージョンである。また、イマージョンは カナダの英語話者の子供たちがフランス語の学校でフランス語で教育を受けるような状況を言う。終日第二言語で教育を受けるものを total immersion programme、部分的なものを partial immersion programme という。)

③ 外国語としての習得。 学習者にとって母語の言語文化環境の中で、多くは母語によって外国の言語を学習することで、日本における英語教育が典型例である。

④ バイリンガルとしての習得。 両親の生活言語が同一でない場合、子供は両方の言語をコード・スイッチングしながら習得する。また帰属集団の教育言語と家庭で使用される言語が異なる場合にも子供は同時に習得する。子供はそれぞれの言語コンテキストにそれぞれの意味体系で個別に対応する。Brown(1994)はこれを共同型バイリンガル (cooperative bilinguals) と呼んでいる。これに対し、一つの意味体系で (多くは母語の意味体系で) 二言語に対処するのを複合型バイリンガル (compound bilinguals) と呼ぶ。また、バイリンガルの言語習得には社会的要因が多く関わる、つまり自分の母語社会と目標言語 (TL) 社会との関係をどう意識して捉えるかによって付加的バイリンガル (additive bilinguals) となって二言語を習得する場合 (balanced bilinguals) と、減数的バイリンガル (subtractive bilinguals) となって母語が失われて行く場合とがある (Lambert 1974, in Ellis 1994.)。付加的バイリンガルは、母語社会が TL 社会と同列か上位にあると意識される場合に多く、減数的バイリンガルはマイノリティの子弟に起こることが多い。

<資料2> 言語習得動機づけの種類

1940年代北米において D.Jordan, S.Arsenian 等によって始められ、50年代 R.Gardner 等のリサーチによって本格化した言語習得に関わる動機づけ・態度 (attitude) など情意要因の社会心理学的研究は中

川 (2001) で概観した。同論文 (p.44) から言語習得動機づけの一覧を提唱者名とともに示す。

言語習得に関わる動機づけ

- 統合的動機づけ (integrative motivation) ..... Gardner(1960)/Spolsky(1969)  
 同化的志向 (assimilative orientation) ..... Krashen(1981)  
 (vs. integrative motivation) Graham(1984)  
 統合的志向 (integrative orientation) ..... Gardner & Lambert(1972)  
 (vs. assimilative motivation) Graham(1984)  
 自己同定志向 (self-identification)  
 道具的動機づけ (instrumental motivation) ..... Gardner & Lambert(1972)  
 道具的動機 (instrumental motive) ..... Gardner & Lambert(1972)  
 誘発的動機 (manipulated/incentive motive) ..... 縫部等(1995)  
 権謀術数的動機 (machiavellian motive) ..... (Oller & Perkins 1978)  
 包括的動機づけ (global motivation) ..... Brown(1994)  
 興味/好奇心による動機づけ (interest motivation) ..... Keller(1984)  
 憧憬/偶像視による動機づけ (idealization)  
 結果的動機づけ (resultative motivation) ..... Hermann(1980)  
 状況的動機づけ (situational motivation) ..... Brown(1994)  
 協同的動機づけ (cooperative motivation)  
 競争的動機づけ (competitive motivation)  
 課題達成動機づけ (task-oriented motivation) ..... Brown(1994)  
 達成志向 (achievement orientation)  
 局面的動機づけ (初期局面/最終局面)  
 自発的動機づけ (autonomy/self-motivation) ..... Bruner (1962)  
 Ushioda(1996)  
 内発的動機づけ (intrinsic motivation) ..... Bruner (1962)/Maslow(1970)/Deci(1978)  
 外発的動機づけ (extrinsic motivation)

<資料3> インフォーマントの出身地と母語

<地域別インフォーマント数> 計 174 人

西欧	12人(6.9%)	イギリス4/オランダ1/デンマーク1/ドイツ1/ フランス2/ベルギー/マルタ1/ルーマニア1
アングロ・アメリカ	2人(1.2%)	アメリカ合衆国1/カナダ1
ラテン・アメリカ	12人(6.9%)	アルゼンティン2/ヴェネズエラ1/チリ1/ ニカラグア1/ブラジル4/ホンデュラス1/ メキシコ1
オセアニア	5人(2.9%)	ソロモン諸島1/トンガ1/ニュージーランド2/ バブア・ニューギニア1
アフリカ	4人(2.3%)	エジプト1/ガーナ1/コンゴ1/タンザニア1
東アジア	104人(59.5%)	韓国40/中国60/台湾2/日本1/香港 <sup>10</sup> 1
東南アジア	18人(10.4%)	インドネシア2/カンボジア1/タイ4/ベトナム1/フィリピン6 マレーシア1/ミャンマー2/ラオス1
南アジア	8人(4.6%)	インド3/スリランカ1/バングラデシュ3/ ネパール1
(他にアジア人)	1人(0.6%)	
中東	4人(2.3%)	イラン2/サウジアラビア2
CIS・東欧	4人(2.3%)	ルーマニア1/ロシア3

<インフォーマントの母語>

37 言語 (原則として本人の記述のまま記載する。(ただし考察の中では、韓国語と朝鮮語は一種として数え、広東語、びん南語は中国語として分類した。))

<sup>10</sup> 本人の記入による。

中国語 51      韓国語／朝鮮語 49      スペイン語 8      英語 8      タイ語 4  
ポルトガル語 4      アラビア語 3      タガログ語 3      タミール語 3      フィリピン語 3  
フランス語 3      ベンガル語 3      ロシア語 3      広東語 2      スワヒリ語 2  
ビルマ語 2      ベルシャ語 2      ルーマニア語 2      オランダ語 1      カンボジア語 1  
クボクタ語&ババタナ語 1      ジャワ語 1      デンマーク語 1      ドイツ語 1  
トンガ語 1      日本語 1      ネパール語 1      バリ語 1      パプア・ニューギニア語 1  
ヒンディー語 1      びん南語 1      ベトナム語 1      マルタ語 1      マレー語 1  
モンゴル語 1      ラオ語 1      不明(アジア) 1

<資料4> 集計(滞日期間/滞在予定/来日前日本語学習歴)

滞日期間

	留学生									社会人									小計
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	0	1	2	3	4	5	6	7	8	
	0 1年未満 1~3年 3~5年 5~7年 7~10年 10年以上 永久未定?									0 1年未満 1~3年 3~5年 5~7年 7~10年 10年以上 永久未定?									
1 西欧		5	3	1						1	1	1							12
2 北米										1	1	1							2
3 中南米		3	5	1						1	1				1				12
4 オセアニア			5																5
5 アフリカ			2									1	1						4
6 東アジア																			
7 東南アジア		5	8	1		1								1	1	2			19
8 南アジア			6	1	1														8
9 中東			1	1		1						1							4
10 東欧CIS				4								1							4
非漢字圏	13	34	5	1	2					1	3	5	1	1	2	2			70
漢字圏	12	31	17	12	8	8		1		3	5	4	2	5	5	2	2	105	
韓国	6	10	8	8	3	1						1	2		1			40	
中国	6	21	9	4	5	2		1		3	4	2	2	4			2	65	

滞在予定

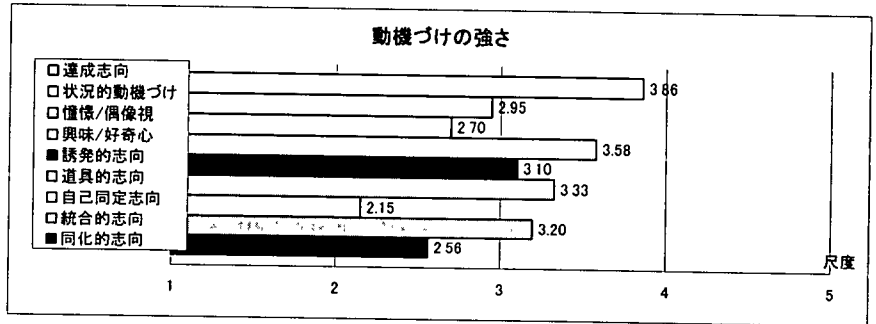
	留学生									社会人									小計
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	0	1	2	3	4	5	6	7	8	
	0 1年未満 1~3年 3~5年 5~7年 7~10年 10年以上 永久未定?									0 1年未満 1~3年 3~5年 5~7年 7~10年 10年以上 永久未定?									
1 西欧		2	4	3								1						2	12
2 北米												2							2
3 中南米			3	5	1			1					1			1		1	13
4 オセアニア			1	1				2											4
5 アフリカ			1	1													1	1	4
6 東アジア																			
7 東南アジア		2	6	3	1			3									2	2	19
8 南アジア		3	2	1				2											8
9 中東			3									1							4
10 東欧CIS		2	1	1															4
非漢字圏	9	21	15	2	0	0	0	8		4	1				1	3	6	70	
漢字圏	9	25	22	6	0	0	0	16	1	6	1	2	1	1	4	5	12	105	
韓国	6	8	10	4	1		2	5			1	2					1	40	
中国	3	17	12	2			2	11	1	6			1			4	4	65	

留学前学習期間

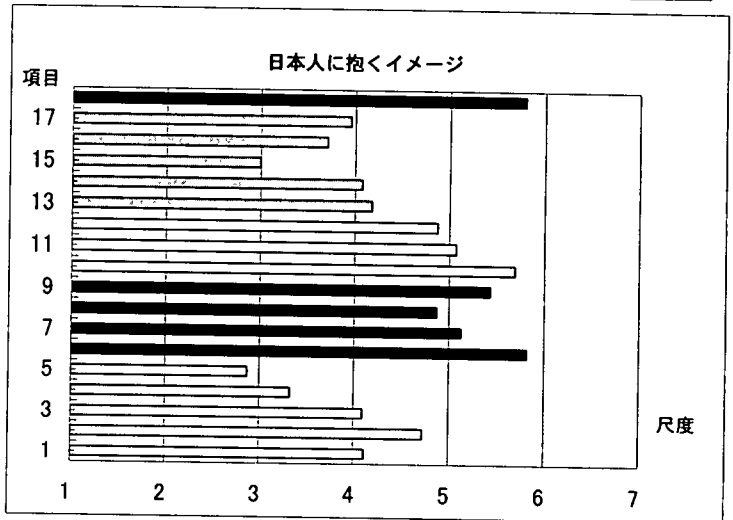
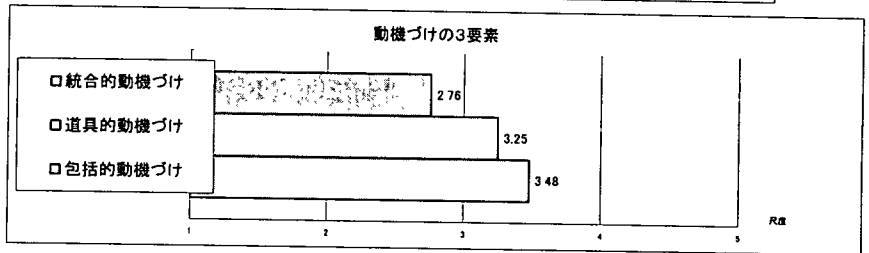
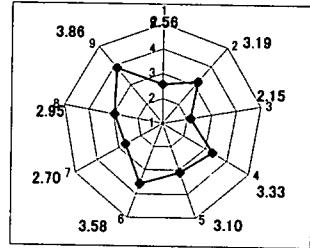
	留学生									社会人									小計
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	0	1	2	3	4	5	6	7	8	
	0 1年未満 1~3年 3~5年 5~7年 7~10年 10年以上 永久未定?									0 1年未満 1~3年 3~5年 5~7年 7~10年 10年以上 永久未定?									
1 西欧		3	1	3	1						1								12
2 北米											1	1							2
3 中南米		1	3	1	2			2				1	2						13
4 オセアニア		3				2													5
5 アフリカ		2								1	1								4
6 東アジア																			
7 東南アジア		3	5	5	1	1				2								2	19
8 南アジア		4		1	1	1			1										8
9 中東		2								1	1								4
10 東欧CIS				1	2														3
非漢字圏	18	10	4	6	2	3				3	6	2	3	1	1	1	2	70	
漢字圏	19	21	16	8	5	7	8			6	8	4	9	2	1	3	4	105	
韓国	5	9	10	4	2	3				3	1	2	1					40	
中国	8	12	6	4	3	4	8			3	2	4	1	2	1	3		65	

<資料5> インフォーマント全員

集計結果-3 (有効回答数161)



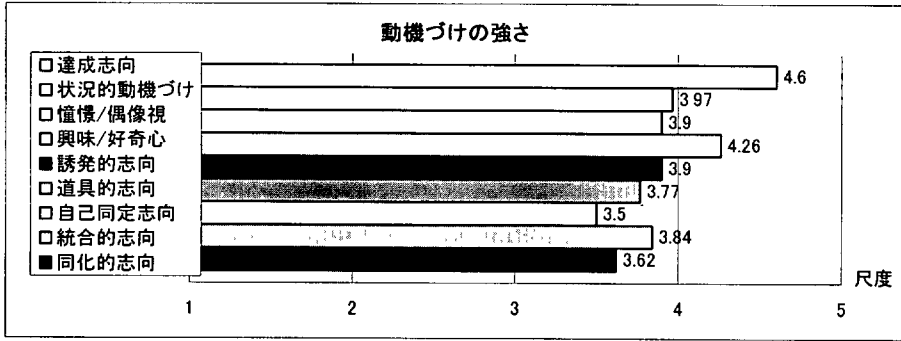
1 同化志向	統合的動機づけ
2 統合的志向	統合的動機づけ
3 自己同定志向	統合的動機づけ
4 道具的動機	道具的動機づけ
5 誘発的動機	道具的動機づけ
6 興味/好奇心	包括的動機づけ
7 憧憬/偶像視	包括的動機づけ
8 状況的動機づけ	状況的動機づけ
9 達成志向	達成志向動機づけ



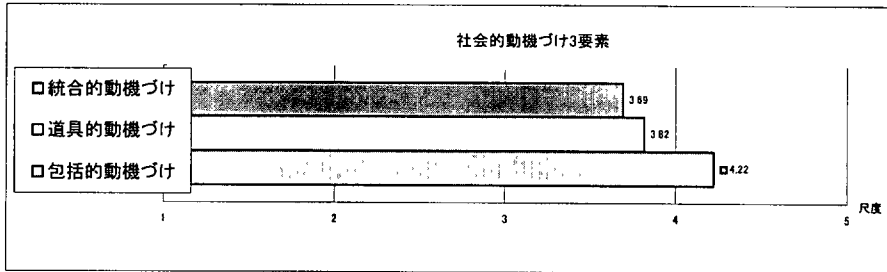
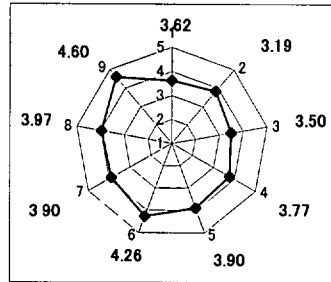


<資料 6> 永住予定者

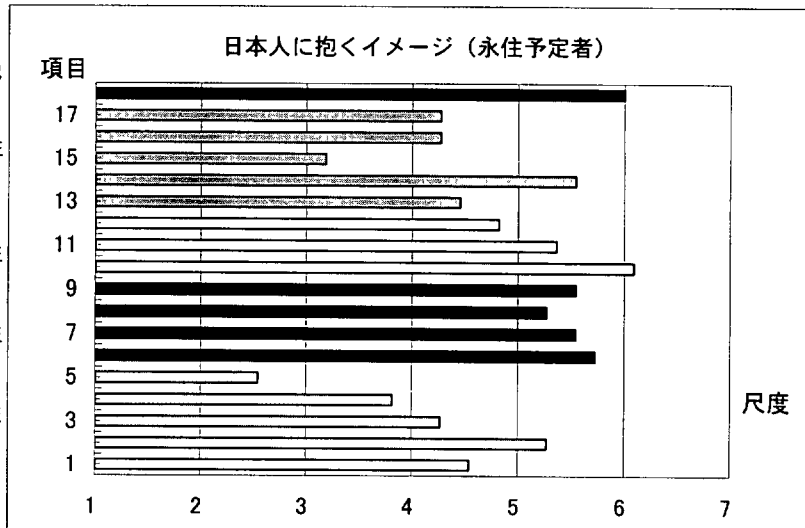
集計結果-19(永住予定者) 有効回答数 11



1 同化志向	統合的動機づけ
2 統合的志向	
3 自己同定志向	
4 道具的動機	道具的動機づけ
5 誘発的動機	
6 興味/好奇心	
7 憧憬/偶像視	包括的動機づけ
8 状況的動機づけ	状況的動機づけ
9 達成志向	達成志向動機づけ



- 18 その他
- 13-17 先進性
- 10~12 信頼性
- 6~9 勤勉性
- 1~5 親和性



<資料7>

CORRELATION MATRIX

(日本人に抱くイメージ/Attitudes toward Japanese people)  
(態度と動機づけ/ (Attitudes & Motivation))

	a1	a2	a3	a4	a5	a6	a7	a8	a9	a10	a11	a12	a13	a14	a15	a16	a17	a18
a1	1.00																	
a2	<u>0.62</u>	1.00																
a3	<u>0.48</u>	<u>0.42</u>	1.00															
a4	-0.05	-0.04	0.10	1.00														
a5	<u>0.23</u>	0.14	0.18	-0.12	1.00													
a6	0.11	0.09	0.19	-0.07	0.02	1.00												
a7	0.12	0.12	0.08	-0.01	-0.08	<u>0.43</u>	1.00											
a8	<u>0.27</u>	<u>0.27</u>	<u>0.23</u>	0.05	0.19	<u>0.29</u>	<u>0.26</u>	1.00										
a9	<u>0.28</u>	<u>0.27</u>	<u>0.22</u>	0.05	0.19	<u>0.21</u>	0.02	<u>0.23</u>	1.00									
a10	0.07	0.10	0.06	-0.06	-0.02	<u>0.42</u>	<u>0.32</u>	<u>0.24</u>	<u>0.24</u>	1.00								
a11	<u>0.36</u>	<u>0.37</u>	<u>0.45</u>	0.08	0.09	<u>0.27</u>	0.17	<u>0.23</u>	<u>0.39</u>	<u>0.22</u>	1.00							
a12	<u>0.21</u>	<u>0.20</u>	<u>0.43</u>	0.11	0.02	<u>0.20</u>	<u>0.21</u>	0.18	0.10	<u>0.22</u>	<u>0.55</u>	1.00						
a13	0.11	0.06	<u>0.20</u>	0.19	0.10	0.10	<u>0.22</u>	0.04	0.06	0.13	0.14	<u>0.30</u>	1.00					
a14	<u>0.22</u>	<u>0.23</u>	<u>0.37</u>	<u>0.21</u>	0.13	<u>0.22</u>	<u>0.29</u>	0.14	<u>0.20</u>	0.19	<u>0.30</u>	<u>0.32</u>	<u>0.39</u>	1.00				
a15	0.14	0.06	0.01	0.16	0.01	-0.06	-0.08	-0.10	0.05	0.01	-0.05	-0.02	0.07	0.08	1.00			
a16	-0.16	-0.04	-0.03	0.15	0.14	-0.02	-0.03	-0.03	-0.19	-0.13	-0.17	-0.15	0.16	<u>0.30</u>	0.09	1.00		
a17	0.18	<u>0.28</u>	<u>0.26</u>	0.07	-0.02	<u>0.21</u>	<u>0.31</u>	<u>0.25</u>	0.04	0.14	<u>0.29</u>	<u>0.26</u>	<u>0.42</u>	<u>0.45</u>	-0.01	<u>0.23</u>	1.00	
a18	-0.10	0.06	-0.05	-0.21	0.13	0.14	-0.01	0.09	0.17	0.09	0.03	-0.01	-0.20	-0.17	-0.15	-0.08	-0.08	1.00
M1	0.06	-0.07	0.03	0.04	-0.01	-0.08	-0.04	0.01	0.04	-0.01	0.02	0.03	-0.09	0.11	0.03	0.04	0.03	-0.10
M2	0.08	0.08	0.02	-0.08	0.08	-0.07	0.01	-0.13	0.01	0.07	0.12	0.05	0.04	0.16	0.02	-0.02	-0.02	-0.12
M3	0.09	0.06	0.10	0.05	-0.02	0.03	0.05	0.04	-0.02	0.03	0.10	0.12	-0.07	0.08	0.00	0.04	0.03	0.00
M4	0.13	0.12	0.07	-0.04	-0.11	0.10	0.07	0.06	0.06	0.07	0.13	0.08	0.00	0.16	-0.05	-0.03	0.05	-0.02
M5	0.00	0.01	0.13	0.05	-0.01	0.06	0.03	0.04	0.07	0.08	0.12	0.14	0.03	0.20	-0.03	-0.09	0.00	-0.08
M6	<u>0.22</u>	0.09	<u>0.42</u>	0.14	0.08	0.11	0.12	0.15	0.04	0.06	<u>0.30</u>	<u>0.37</u>	0.13	<u>0.30</u>	-0.05	-0.14	0.18	-0.09
M7	0.16	0.15	0.24	0.02	0.05	0.19	0.10	0.17	0.10	0.10	<u>0.23</u>	<u>0.22</u>	0.05	<u>0.24</u>	-0.10	0.01	<u>0.23</u>	0.00
M8	0.07	-0.05	0.15	0.06	0.02	0.12	0.15	0.10	0.03	0.06	0.11	0.09	-0.09	<u>0.29</u>	0.07	0.03	0.14	0.07
M9	0.03	0.07	0.07	0.05	0.01	-0.02	0.04	0.04	-0.07	0.00	-0.01	0.04	0.07	<u>0.23</u>	-0.04	0.18	0.13	0.01
M10	0.11	0.11	0.16	0.09	0.06	0.14	0.06	0.10	0.09	0.03	0.09	0.17	0.07	0.14	0.00	0.05	0.15	-0.04
M11	0.12	-0.03	0.04	-0.02	-0.11	0.02	0.05	0.12	0.10	0.08	0.12	0.06	0.09	0.11	-0.01	-0.07	0.04	-0.09
M12	0.14	0.02	0.06	-0.09	-0.08	0.07	0.06	-0.03	0.05	0.09	0.04	0.10	0.06	0.16	-0.02	-0.06	0.11	-0.04
M13	0.14	-0.01	0.19	0.13	-0.01	0.09	0.06	0.00	-0.03	-0.03	0.06	0.11	0.09	<u>0.25</u>	0.02	0.10	0.14	-0.06
M14	0.01	-0.05	0.17	0.11	-0.17	0.04	0.07	-0.02	0.07	0.09	0.01	0.19	0.09	0.15	-0.09	0.01	-0.01	0.05
M15	0.08	0.06	0.15	0.05	0.01	0.17	0.05	0.17	0.26	0.10	0.11	0.07	0.14	0.17	-0.08	-0.06	0.04	0.05
M16	0.08	0.07	0.06	0.03	0.04	0.09	0.06	0.01	0.06	-0.01	0.06	0.14	0.08	0.04	-0.02	-0.02	0.18	0.04
M17	0.07	0.10	-0.01	0.00	-0.02	0.10	0.03	-0.02	0.01	0.02	0.04	0.07	0.04	0.07	0.05	0.05	0.15	-0.03
M18	0.08	0.16	-0.01	0.03	0.03	-0.01	-0.08	-0.01	0.12	-0.02	0.05	0.05	-0.05	0.08	-0.01	0.01	0.17	0.07
M19	0.10	-0.06	0.06	0.07	0.05	-0.07	0.05	0.03	0.10	0.10	0.11	0.12	0.01	0.12	0.02	0.02	0.14	-0.10
M20	0.12	-0.06	0.09	0.03	-0.01	-0.03	0.17	-0.07	0.06	0.00	0.09	0.04	0.07	0.17	0.05	0.09	0.19	-0.05
M21	0.06	0.00	0.01	-0.11	0.00	-0.11	-0.03	-0.02	-0.03	-0.04	0.10	0.00	-0.07	0.05	0.10	0.06	0.09	-0.05
M22	-0.01	0.08	0.02	0.00	-0.04	0.00	-0.09	-0.03	-0.07	-0.06	0.12	0.15	-0.05	0.11	-0.10	0.13	0.16	-0.01
M23	0.08	0.03	0.06	0.11	-0.04	0.10	0.12	0.05	0.06	0.05	0.13	0.20	0.17	0.23	-0.02	-0.03	0.06	-0.16
M24	-0.01	-0.03	0.08	0.02	-0.02	-0.04	-0.01	0.08	0.06	0.11	0.10	0.04	-0.04	0.08	-0.06	-0.08	-0.05	-0.07
M25	0.03	0.01	-0.06	-0.11	0.05	0.08	0.00	0.05	0.06	0.07	0.12	0.02	-0.18	-0.03	-0.04	-0.06	-0.05	-0.05
M26	-0.06	-0.06	0.02	-0.01	0.06	0.10	-0.02	0.06	0.01	0.09	0.18	0.08	0.04	-0.01	-0.10	-0.09	0.07	-0.01
M27	0.20	0.13	0.28	0.10	0.13	-0.02	-0.04	0.09	0.09	-0.06	0.11	0.21	0.09	0.17	-0.09	-0.03	0.01	-0.07
M28	0.06	0.03	0.09	0.02	0.00	0.14	0.06	<u>0.24</u>	0.13	0.16	0.09	0.07	0.11	0.19	0.01	-0.04	<u>0.25</u>	0.11
M29	0.10	-0.05	0.17	0.09	0.06	0.04	0.17	-0.02	-0.03	0.14	0.05	0.17	0.12	<u>0.23</u>	0.10	0.05	0.14	-0.03
M30	0.14	-0.02	0.09	0.03	0.05	-0.11	0.00	-0.06	0.04	-0.07	-0.01	0.07	0.04	<u>0.21</u>	0.06	0.03	0.11	-0.20
M31	0.07	0.14	0.19	0.08	0.14	0.03	0.02	0.04	-0.04	-0.05	0.01	0.09	0.00	0.07	-0.03	-0.03	-0.02	0.05
M32	0.13	-0.08	0.17	0.07	-0.02	0.10	0.18	-0.02	0.07	0.14	<u>0.23</u>	<u>0.26</u>	<u>0.21</u>	<u>0.27</u>	0.03	-0.06	0.03	-0.13
M33	0.14	0.10	0.07	0.00	0.11	-0.06	-0.04	0.02	0.14	0.06	0.16	0.07	0.00	0.08	-0.04	-0.05	-0.03	-0.08
M34	0.13	0.09	0.09	0.09	0.10	0.03	-0.04	0.07	0.10	0.15	0.01	0.10	0.10	0.19	-0.02	0.02	0.03	-0.12
M35	0.19	0.06	0.08	0.04	0.00	0.09	0.00	-0.03	0.12	0.16	0.19	0.15	0.16	0.13	-0.02	-0.11	0.08	-0.08
M36	0.16	0.02	0.13	0.03	-0.06	-0.09	-0.01	0.00	-0.08	0.02	0.04	0.15	0.07	0.16	-0.06	0.04	0.01	-0.19
M37	<u>0.22</u>	<u>0.23</u>	<u>0.20</u>	0.03	0.01	0.13	0.08	0.14	0.03	0.12	<u>0.24</u>	0.19	0.10	<u>0.22</u>	0.10	0.00	<u>0.28</u>	-0.10
M38	<u>0.29</u>	<u>0.20</u>	<u>0.44</u>	0.10	0.04	0.17	0.11	0.19	0.04	0.12	<u>0.38</u>	0.28	0.06	<u>0.25</u>	-0.07	-0.14	<u>0.25</u>	0.00
M39	<u>0.25</u>	<u>0.21</u>	0.19	0.01	0.00	0.14	0.05	0.09	-0.01	0.12	<u>0.20</u>	0.18	0.05	0.17	-0.04	-0.01	0.18	-0.07
M40	0.13	0.06	0.12	0.05	0.04	0.11	0.09	0.05	-0.15	0.12	0.12	0.15	0.06	0.17	-0.04	0.00	0.16	-0.15
M41	0.10	0.12	0.11	0.08	0.04	0.04	-0.01	0.05	0.00	-0.02	0.13	0.03	0.07	0.17	0.06	0.04	0.14	0.03
M42	0.10	0.17	0.14	0.00	0.13	0.17	0.13	0.14	0.13	0.02	0.09	0.06	-0.04	0.16	-0.02	0.04	0.11	0.15
M43	<u>0.20</u>	<u>0.20</u>	0.17	0.05	0.06	0.13	0.04	0.09	0.14	0.08	0.08	0.17	0.10	<u>0.26</u>	0.10	-0.07	<u>0.21</u>	-0.03
M44	0.13	0.16	0.15	0.00	0.08	0.01	0.01	-0.03	0.07	0.00	0.11	<u>0.20</u>	-0.01	<u>0.29</u>	-0.01	-0.11	0.07	-0.12
M45	0.06	-0.06	0.30	0.18	-0.01	0.02	0.09	0.02	-0.03	0.02	0.11	<u>0.24</u>	0.18	<u>0.30</u>	0.09	0.01	0.11	-0.12
M46	0.06	0.06	0.23	0.04	-0.01	0.00	0.03	-0.15										